



ファツィオリピアノ日本総代理店

**PRESS RELEASE -- FOR IMMEDIATE RELEASE**

**ルービンシュタイン国際ピアノコンクール  
初の入賞者日本ツアー  
2015年1月22日より全国6公演決定**

ピアノフォルティ株式会社（本社港区、代表取締役アレック・ワイル）は、2014年5月13日-29日に開催された第14回ルービンシュタインコンクール（正式名称：アルトゥール・ルービンシュタイン国際ピアノマスターコンクール）の入賞者の日本ツアーを2015年1月に招聘する。

国際的なコンクールでは、入賞者にその後のコンサートの場を世界的に提供するが、当コンクールの入賞者コンサートが日本で行われるのは初めてのことである。

「今回弊社は初めてルービンシュタイン国際ピアノコンクールに出場し、弊社の日本チームが技術とアーティスト・リレーションを担当しました。期間中を通じ、その組織力の素晴らしさと、全てピアニストのためにという温かい柔軟な対応に感動しました。ピアニストはオーケストラ団員だけでなく、そこで働く人たち、多くの市民ボランティアの方々など沢山の方からサポートを受け、フレンドリーな雰囲気の中でレベルの高い技を競い合うことができました。日本でも入賞者コンサートの開催をというコンクールの願いに答え、記念すべきコンクール40周年の年に日本コンサートを実現することを決定しました」とアレック・ワイルは述べている。

現在までに東京、浜離宮朝日ホール（2公演、1月22日）、埼玉、川口リリアホール（1月23日）、武蔵野文化会館（1月24日）、名古屋宗次ホール（2公演、1月26日）の6公演が決定しており、3名の入賞者が参加する。参加者は1位アントニー・バリシェフスキー（ウクライナ）、2位スティーヴン・リン（台湾・アメリカ）、ファイナリスト賞・聴衆賞マリア・マゾ（ロシア）の3名で、ガラ・コンサートの形式で行われる。

第12回、13回の審査副委員長を務めた中村紘子氏は「21世紀に入って多くの大コンクールが凋落していく中で、際立つ勢いを見せるのはイスラエルのルービンシュタインコンクール。今や現代の三大コンクールの一つと言っても過言ではないでしょう。」とそのレベルの高さについて言及している。

当コンクールの覇者には、初回の優勝者エマニュエル・アックス、ゲーハルト・オーピツ（第2回）を始めとし前回（13回）の入賞者ダニール・トリフォノフ（1位）、ボリス・ギルトバーグ（2位）、イリア・ラシュコフスキー（3位）、福間洸太郎（ファイナリスト賞）に至るまで、日本でも人気のあるピアニストが名を連ねている。



ファツィオリ・ピアノフォルティ社（本社イタリア、サチーレ、ポルデノーネ市）：

「世界一のピアノを造る」という夢を持ったパオロ・ファツィオリ氏によって1981年に創立された。現在年間約130台のグランドピアノを手造りで造り続けている。創設者のピアニストでありエンジニアでもあるパオロ・ファツィオリ氏は今なお、たゆまぬ技術革新を続けている。ファツィオリピアノはスタニスラフ・ブーニン氏やハービー・ハンコック氏などクラシックやジャズなどジャンルを問わず世界中のピアニストに愛されている。ファツィオリブランドは2010年のショパン・コンクールで初めて国際的なコンクールに使用され、ダニール・トリフォノフ氏がファツィオリを弾いて3位になった。以降大きな国際コンクールに招聘されている。

アルトゥール・ルービンシュタイン国際ピアノマスターコンクール（The Arthur Rubinstein International Piano Master Competition）：

3年に一度、イスラエル、テル・アビブで行われる国際ピアノコンクール。20世紀の巨匠ピアニスト、アルトゥール・ルービンシュタインの名を冠し、1974年に創設。今年で第14回を数え、40周年の節目の年を迎えた。第14回の開催期間は、2014年5月13日～5月29日。

ピアノフォルティ株式会社（東京都港区芝浦1-13-10）はファツィオリピアノの日本総代理店。全モデルを展示するショールームを日本で初めて2008年にオープンし、パオロ・ファツィオリの志した新しい「現代のピアノ」でピアノの革命を日本のピアノ市場にもたらした。